



教育農場

有機栽培の教育用農地は、毎年 JAS の認証を受けています。教育ファームでは、化学肥料や農薬などの使用禁止物質を使用するだけでなく、地域資源の活用、生物多様性の保全、省力化栽培など、持続可能な農業のための規制を推進しています。ファーマーズマーケットでは、参加者に農業生産方法の説明を求め、有機栽培であること、環境に優しいこと、地元で生産されていること、環境に悪影響を与えないことを保証しています。



農場見学ツアー

学園祭やオープンガーデンなどの公共イベントの際には、農場や庭園のツアーを実施し、持続可能な農業や花壇の管理について一般の人々に伝えています。



里地里山プロジェクト 雑木林手入れ

恵泉女学園大学では 2010 年より里地里山プロジェクトと称し、町田市小野路地域の里山の保全活動を行っております。恵泉の職員・学生だけでなく、NPO 法人みどりのゆびの方々や町田市小野路などの地元の方々と一緒に取り組んでいます。

2020 年 12 月 24 日に山の斜面の低木や笹などの下草を刈っていく作業などの雑木林の手入れを行いました。恵泉里地里山活動の継続を通して、里山環境、生態系を維持・拡大するために、水田活動や雑木林の萌芽更新活動を行っています。



未来の街路花壇を考える会

「街路沿いの花壇に地域に自生する植物を導入する意義と可能性」をテーマとして、一般の方々を対象に公開学習会を行いました。

また、恵泉里地里山活動を通して、東京都レッドデータブック南多摩 NT ランク（準絶滅危惧）に該当する植物種（ホシクサ、*Eriocaulon cinereum*）が水田で再生したことを確認しました。これに加え、以前から生息・生育している IUCN レッドリストの LC ランクに該当するホトケドジョウ（*Lefua echigonia*）、シュレーゲルアオガエル（*Zhangixalus schlegelii*）および、国の NT に該当するミズニラ（*Isoetes japonica*）等の生物種が維持されるよう、無農薬での水田活動を継続しています。

Keisen Wild Rose Garden～野ばらの庭～

キャンパス内の一面にバラ属の野生種を主体とした Keisen Wild Rose Garden を作成しました。環境負荷の少ないオーガニック栽培を実践しており、以下の観点で取り組んでいます。

- ・「野生種のバラを、北半球の4つの地域（北アメリカ、ヨーロッパ、中国、日本）に分けて植栽する。」
- ・「学生/観賞者の健康や生物多様性など、身近なところから地球環境問題に配慮し、無化学肥料、無農薬で栽培する。さらに、将来的に無化学肥料、無農薬で栽培できるバラを地域社会へ提案することを視野に入れる。」
- ・「人と植物の自然史/文化の関わりを理解する学習のフィールドとする。」
- ・「遺伝資源として野生種のバラを保全する。」



竹チップ段ボールコンポスト

恵泉女学園大学ガーデンクラスルーム研究会が開発した「竹チップ段ボールコンポスト」は生ごみをたい肥化する、生ごみ処理容器です。このコンポストは生ごみを減らし、地球温暖化を防止しています。この活動を通して地方自治体や社会福祉法人「共働学舎」、多摩地区の NPO 法人等と協力しています。

